

令和6年 第15回ダイバーシティ推進ランチョンセミナーを終えて

2024年9月13日から15日にかけて、日本植物学会第88回大会（宇都宮大会）が開催されました。今回は5年ぶりの完全対面形式で、多くの参加者が集まりました。ダイバーシティ推進ランチョンセミナーは、「人生設計における博士号取得～先輩、博士は役に立ってますか？～」をテーマに、15日（日）に行われました。

セミナーの冒頭では、寺島一郎学会会長（東京大学・名誉教授、台湾国立中興大学・招聘教授）が挨拶し、日本の学界における博士キャリアパスの課題が依然として続いていると指摘しました。続いて、高山浩司ダイバーシティ推進委員会委員長（京都大学・准教授）が本年度のテーマ選定の経緯を説明しました。昨年のセミナー後のアンケート結果で、若手のキャリア支援に対する要望が多く寄せられたことに加え、

文部科学省の「博士人材活躍プラン～博士を取ろう～」を引用し、国としても博士人材のキャリアパス拡充に向けた対策が進んでいることを述べました。事前アンケートの結果では、約7割の参加者が大学や公的研究機関での就職を希望している一方で、多くの方が日本の研究業界の未来に不安を抱いているという状況が浮き彫りになりました。これらの背景を踏まえ、博士人材の多様なキャリアパスを考えてもらうきっかけとして、3名の講演者を招いてパネルディスカッション形式のセミナーが行われました。

パネルディスカッションは、川上大地博士（カゴメ株式会社）、亀井綾子博士（モデルナ・エンザイマティクス株式会社）、中川知己博士（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校）がパネリストとして参加し、司会はダイバーシティ推進委員の越水静氏が務めました。

最初に、各パネリストが自己紹介を行いました。川上氏は、学生時代から研究成果の社会実装に強い関心を持ち、リーディング大学院プログラムの経済支援を受けながら博士号を取得し、現在は民間企業でトマトの品種改良や病害防除技術の研究に取り組んでいるとの紹介がありました。続いて、亀井氏は、博士号取得後に国内外の研究室でポスドクとして活動し、アメリカでの留学を機にベンチャー企業に転職後、現在は企業の研究開発部門で分析業務を担当しているとの紹介がありました。最後に、中川氏は、博士号取得後の20年間、大学や研究所で研究者として活動し、現在はSSH校で高校生への研究指導を行いながら、研究の楽しさや有用性を広める活動にも取り組んでいるとの紹介がありました。

第15回日本植物学会ダイバーシティ推進ランチョンセミナー

BSJ 日本植物学会

人生設計における 博士号取得

～先輩、博士は役に立ってますか？～

日時 2024年9月15日(日) 12:00-13:00

場所 K会場

お弁当あります！
(先着150名)

【パネリスト】



川上 大地 博士(農学)
カゴメ株式会社 コーポレートアグリ
リサーチ&ビジネスセンター 農業技術
技術開発部 トマト・アグリテック



亀井 綾子 学術博士
モデルナ・エンザイマティクス株式会社
CMC Analytical Development
Principal Scientist



中川 知己 農学博士
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等
学校 研究指導専任・特別非常勤講師

【セミナープログラム】

1. 日本植物学会会長挨拶 寺島 一郎(東京大)
2. 本テーマを取り上げた経緯 高山 浩司(京都大)
3. パネルディスカッション 司会 越水 静(遺伝研)

文部科学省は2024年3月に「博士人材活躍プラン～博士を取ろう～」を発表しました。博士号取得後が大学でのみならず、多様なフィールドで活躍する社会が目指されています。本セミナーでは、民間企業や高校で働く3名の博士号取得者を招き、博士号取得が現在の仕事でどのように役立っているかを紹介していきます。また、博士人材が社会で活躍するための意識すべき点や、現在の留意点を議論します。



日本植物学会第88回大会に参加登録された方は
どなたでも本セミナーに自由に参加できます。



続いて司会から、事前アンケートを基にした質問がパネリストに投げかけられました。「職場での博士号取得者の割合」「博士号取得者の待遇」「求められるスキル」「職場での英語能力の必要性、必要とされるレベル」「企業とアカデミックの違い」などの質問に対して、3名のパネリストがそれぞれの経験を踏まえて回答しました。職場による多少の違いはあるものの、博士号取得者は即戦力と見なされるため、就職のマッチングが極めて重要だという点が共通していました。また、高いコミュニケーション能力や科学的な思考力が、企業や教育機関でも求められることが強調されました。博士課程では、日常的にこれらの能力が鍛えられるため、それが博士の大きな強みになるとの話もありました。

会場からは、「博士号は結婚に役立ったか?」「良い研究テーマを見つけるにはどうしたらいいか?」といった質問が挙がり、パネリストがそれぞれの視点で答える場面もあり、大変和やかな雰囲気です。予定の1時間はあっという間に過ぎました。

今回のセミナーでは、第10回ランチョンセミナーでも取り上げられたように、博士号取得者のキャリアパスの多様性が、改めて感じられる機会となりました。ダイバーシティ推進委員でテーマを画策し、パネリストの人選や事前の打ち合わせを綿密に行い、充実したセミナーを実現することができました。パネリストの皆様には、快くご協力いただき、感謝申し上げます。

セミナー後のアンケートには多数の回答をいただき、特に自由記述欄には多くの貴重な意見が寄せられました(アンケート結果は別リンクにて紹介しています)。これらの意見を、次回のランチョンセミナーにも反映していく予定です。

最後に、学会運営委員や大会実行委員の皆様、そして寺島学会会長には多大なるご支援をいただきました。また、ダイバーシティ推進委員 OG の日原由香子博士(埼玉大学)には、大会実行委員としてランチョンセミナーの担当をして頂き、大変心強かったです。限られた予算の中で、セミナー後の会場移動にもご配慮いただき、お陰様で多くの方にご参加いただきました。心より感謝申し上げます。



会場の様子 多くの方にご来場いただきました

ダイバーシティ推進委員会委員長：高山浩司